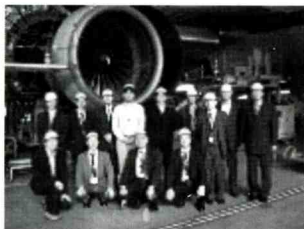


「よく見る会」全日空 機体メンテナンスセンター 見学報告

JL0009/05/4409-0654 ©2005 SICE

一般向け見学コースが人気でなかなか予約が取れない「ANA 機体メンテナンスセンター」。今回の計装技術交流部会の「よく見る会」では、そのANA 機体メンテナンスセンターの見学を4月22日に開催しました。点検や保守、安全に対する取り組みや、航空機の計測と制御についてお伺いし、情報交換を含め技術や知識の向上が見学会の目的です。



諸事情により参加人数は14名と少数限定になりましたが、逆に質問がしやすくなり、より有意義な時間を過ごす事ができました。以下に見学内容を報告します。

1. 説明

(1) 航空機整備の概要

航空機整備の区分や整備する内容、国内の整備拠点、整備士育成プログラムなどについてお話いただきました。印象に残ったことを2つ紹介します。

- 一等航空整備士のサインがないと飛行機は離陸できないこと（最低でも実務経験3年以上でやっと1機種の受験資格となる厳しい国家資格です）
- 国内線、国際線の定時出発率が世界最高水準を維持していること（2001年より目標値：国内線99.7%以上、国際線99.3%以上を毎年クリア）

(2) 航空機整備における安全とヒューマンファクターへの取り組みについて

品質の作り込みや、航空機の安全、ヒューマンファクターへの実践的取り組みについて説明がありました。品質保証の根幹として「確かめと見直し」という基本的コンセプトは航空機整備に限らず、参加者に共通して役立つ手法でした。一例として、パーツが1個でもなくなれば見つかるまで探すという体制は、当たり前かもしれませんが、安全に対する厳しい取り組み意識を感じました。

エラー報告については、再発防止レポートとしてデータベースにアップされます。ここまでは多くの企業で行われ

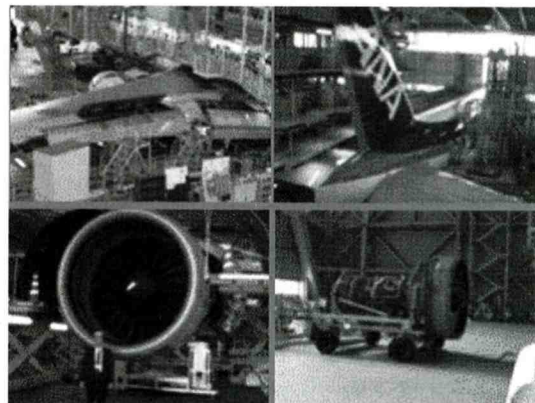
ている手法と思いますが、関係者全員に読んでもらうことは容易ではありません。こちらではネットワーク上に公開しており、見たらクリックです。誰が見たか見ていないのか、すべてオープンになっているそうです。

(3) 制御システムの構成

オートフライトコントロールや手動介入時の動作について、また、多重化による高い信頼性、高度や速度の計測システムについて聞くことができました。このお話は、参加された自動車メーカの方にとって、特に興味を引く内容だったようです。

2. 整備場内の見学

見学は一般コースからはずれて、作業現場を間近に見せていただきました。



3. 質疑応答

機種を絞ることで品質向上とサービス向上に努める姿勢をお伺いし、また、熟練者の定年退職問題や予知保全について、参加者に共通な課題で盛り上がりました。

最後になりましたが、小林昭夫様（整備本部 機体メンテナンスセンター 管理室長）、佐々木義治様（機体メンテナンスセンター 生産業務室 生産技術担当 主席部員）、佐々木一億様（機体メンテナンスセンター 品質管理室 主席部員）には、お忙しいにもかかわらず、私たちのためにお時間をさいていただきまして、ありがとうございました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

（計装技術交流部会：坂本憲昭）

（2005年7月1日受付）